

環境審議会意見に対する市の考え方（土砂埋立て等規制関係）

検討事項

意見	市の考え方
<p>土砂の埋立て等の工事をすると、必ず何かしらの汚濁が起こると思う。</p> <p>細かい粒径のものはそのまま流れてしまうので、問題がある。濁度は必要でないか。</p>	<p>土砂は搬入前に、行為者に土砂の発生場所や汚染のおそれがないことを確認させることとします。</p> <p>埋立て等区域からの排水については、水質基準を設定して、行為者に遵守義務を課すこととします。水質測定については、土砂埋立て等の規模、生活環境への影響の度合い等を勘案し、行政立入時に異常な土砂を確認した場合や埋立て等区域の下流域において市民等から水質に係る苦情・相談があった場合等、必要に応じて、行為者に水質測定やその結果を求めることとします。</p> <p>また、行政が排水及び土砂の測定をすることができる制度とします。</p> <p>濁水については、技術基準により、沈砂池等の施設について規定することで、埋立て等区域外への土砂の流出を防止することとします。</p>
<p>結果的に崩落したり、汚染物質が出たりすることがあってはならない。汚染のおそれがないことが履歴から見るとのことだが、水質検査については、3ヶ月に1度が厳しいのなら、もう少し長くてもいいが、入れるほうが良い。あるいは、検査の項目を考えても良いと思うが、いきなり、横出しの中で、不要というのは少し飛躍しすぎなので、考えるべきである。</p>	
<p>大阪府の条例を策定したときに関係していたが、搬入前に汚染のおそれがないというのは、土壤汚染対策法で、そこに汚染の履歴がないということだけなので、実際には地面を掘り返すと、汚染のおそれがなくても、掘り返すことで、本来、動かさなければ、溶け出してこない有害物質が出てくることがある。代表的なものに砒素がある。大阪府の条例で水質検査を課している理由は汚染の履歴がないものであっても、掘り返すことによって、そこに水が浸透することによって、新たに反応して出てくるものがあるからで、必ずしもないとは言えない。このことから、監視してくださいということであって、十分注意していただきたい。濁度の方は工事をしている時は避けられない。なので、例えばどこかに仮設沈砂池を作って、沈殿させてから排出するという形で対処ができる。しかし、溶け出して水に入ってくるものについては、分析しないと分からないので、どれくらいの規模に対して、どれだけ水質検査を実施させるかの判断は難しい。500m²以上に対して適用するとすると、大量に溶け出してくる物質がないような場合は、その影響が軽微だが、何を判断根拠にするかは難しいが、色々検討された方がよい。</p>	
<p>要は、事前に搬入土については土壤汚染対策法の分析された結果が付いてくると思うが、それは部分的なサンプルなので、ダブルスクリーニングをして、チェックすることが大事。盛られたところから出てくる排水について少なくとも1回はチェックして、大丈夫だということを確認されることが重要なので、再検討していただきたい</p>	

意見	市の考え方
※水質検査を規定しても、事業者側の測定結果だけでは、信頼性が低いのではないか。	<p>事業者が排水の水質測定を実施する際には、市の職員が検体の採取に立ち会いすることとします。</p> <p>検体の採取・分析については、計量証明事業者により実施されるため、適正に行われます。</p> <p>また、市による排水の水質測定が必要と考えられる場合、行政測定が行える規定を設けます。</p>

※第2回枚方市環境審議会欠席委員から後日いただいたご意見です。

環境審議会意見に対する市の考え方（土砂埋立て等規制関係）
 その他ご意見

意見	市の考え方
この規制でもって、危険な宅地造成を規制するということなのか。	別の法律に宅地造成規制法があり、その安全基準でもって規制する。
元々宅地として造成を行っていたわけではなく、徐々に進めていき、気づくと宅地になった場合、例えば、農地や用水地から変更になった場合、何らかの規制はないのか。	資料 2-2 の 2 頁の地図の網掛けと着色部分と、白い部分に分けられ、宅地造成の規制を受けているのは着色部分で、真中の白い部分は宅地造成法の規制はかからないが、今回の条例をもって、同様の規制を課すということである。この基準が土砂崩れを起こさない基準となっている。
色んな場所で宅地造成による災害があり、すごい盛土が行われ、後々そこで災害が起きている事例がある。危険な所に、事前に埋立てておいて、その後宅地化するようなことができないような、先を見越した条例ができるのであれば良い。	埋立ててはいけないということではなく、埋立てるときは、崩落しないような厳しい基準を守ってもらうということである。持ってくる土を規制するのではなく、安全に置いてくださいということになる。
残土を埋立てる場合、事業の計画にも言及したような規制が良いのではないのか。	適正な指導ができるような制度になっている。また許可の手続きを踏んでもらうことになる。なお、踏まないものについては適切に対処できるような制度になっている。
これは横だしということになると思うが、方向性は府の条例とほぼ一緒で、負担が大きくなりそうな土砂の搬入中の管理事務所の設置は必要ないということだが、排水の水質検査については、搬入前に汚染のないことを確認しとあるが、規模の大小に関わらず確認しているということなのか。また、どのように確認するのか。	土壌の汚染の確認については、土壌汚染対策法の履歴調査であったり、どこから持ってきたのか、山を切り取ったのか、工場などででも汚染のないところから持ってきたのであれば、土壌汚染対策法の考え方で、汚染がないと判断でき、調査して汚染がないとわかるものであれば、それを以って、搬入される土壌は汚染されていないと判断できる。
3000㎡以上は水質検査が必要ということか。	3000㎡以上は府の条例対象となるので、3ヶ月に1回、排水の検査義務がある。

意見	市の考え方
<p>積んでものが雨で流れたときのチェックと、持ってきた土質のチェックは今回の条例で書かれるのか。</p>	<p>管理台帳の作成義務があるので、搬入した土量であったり、安全性であったりなどの項目がある。土を出す方、搬出者の方に、この土は安全であるという証明をさせることになる。</p>
<p>それは、どこかに明文化されるのか。</p>	<p>資料 2－2 の 5 頁、土砂搬入前の手続きのところで、土砂の発生場所、汚染のおそれのないことの確認・報告とあり、そのように確認することになる。</p>
<p>資料 2－2 の 1 頁の埋立てについてマイナスは対象にならないのか。</p>	<p>埋立てる前の一番低いところが起点になるので、そこから 1 m のところは対象となる。</p>